

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270300599		
法人名	有限会社 源氏		
事業所名	グループホーム 源氏庵		
所在地	静岡県伊豆の国市四日町346-2		
自己評価作成日	平成28年2月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/22/i/ndex.php?acti=on_kouhyou_detai_1_2015_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2270300599-002P.efCd=22&Ver.si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成28年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自然に自分らしく共に生きよう源氏庵」という理念の下に、この地域で暮らされてきた利用者が送られてきた生活を極力維持できるようサポートしていくことに力を入れている。又、利用者家族とコミュニケーションを密にとることで、施設入居に生じる疑問や不安を解消するよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、伊豆半島の入口、伊豆の国市の韮山近くに位置し、北には裾野を広げる富士山が一望できます。事業所の隣には、大型商業施設が、大型工場もあって、交通も賑やかです。事業所は、一部2階建てで介護事業所は平屋部分で事業をしており、2階建て部分は、代表者の長姉一家の住宅で運営にも携わり、家族経営の結束を見せています。代表者は、地域の消防団員も兼ね、親の代からの「きずな」を大切にしています。また職員も設立当初の方がいて多くは7年から8年のベテランぞろいです。事業所内には、古いランドセル、古時計などが展示され「懐かしさ」を覚えるようです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、パンフレットに記載し、施設内にもフロアの目に付く場所に掲げている。又、その理念を実践すべく日頃より介護現場において職員に指導をしている。	「自然に 自分らしく 共に生きよう」という理念を掲げ、地域社会に沿った、在宅に近い環境で過ごしてもらっています。そして、それぞれの個性を伸ばし急がせない生活リズムを保ちたいと努力しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭への出展や、中学生の福祉体験の受け入れ、小学校への職業説明等、地域との関わりを積極的持つようしている。	地区の文化祭には、利用者と職員の共同作品の貼り絵を出品。福祉体験の中学生とは、散歩や会話を楽しんだりします。また敬老会には地域の人が集い、演奏会やお菓子を食べながら交流を楽しみます。管理者は消防団に所属し地元貢献しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護に関わる方々、特に介護をされている家族の相談に応じたり、学生の福祉体験学習を受け、多くの方に認知症を理解してもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設に関わって頂いている地域の方や、各関係協力機関の方々から見たホームに対しての意見やアドバイスを頂き、サービスの向上、見直しを図っている。	事業所では、外部に対しての情報発信には独自でオープンにして運営推進会議以外で実施しています。また、要望のあった地元への認知症の勉強会については、検討することにしてはいます。	運営推進会議の回数、出席者の分野については関係省令に配慮するよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会又は地域ケア会議を軸に相互の協力関係の構築に努めている。また生活保護、緊急支援要請に対して最大限応じるよう努めている。	地域ケア会議は、地域包括支援センターが主催しますが、行政側も出席します。グループ別に発表するときは、事業所での家族ぐるみの経営、食料の地産地消をアピールします。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が施錠及び身体拘束を行う弊害を十分理解し、支援又は介助に努めている。又、日々の生活の中で気づかぬうちに拘束となってしまうような事柄に関しては、職員同士注意し合い、検討をしている。	身体拘束は、基本的には禁止していますが、衛生面で漏便の場合、ご家族の理解の上で、つなぎ服用もあるようです。「徘徊防止」は、出口を限定し防いでいます。また、スピーチロックでは、「否定しない言葉」を使うよう指導しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を得るための研修への参加や、施設内においても、職員同士が意識し注意し合える環境を作り未然に防ぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各利用者の現状に応じ、協力機関との連携を図り、生活に不自由が生じないように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	体験入所を活用し、利用者、家族共に納得した上での本契約締結や、それ以前の見学段階から十分な時間を取り面談を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を設け、日頃から利用者、家族と意見交換のしやすい関係作りに努めている。又、頂いた意見は迅速にサービスに活かせるよう努めている。	事業所では、ご家族の訪問日を増やすため、費用の支払日に面談するなどの支援をしています。要望は、毎日の戸外の運動、適切なカロリー摂取などを要望しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを持つ中で、意見や提案に傾聴し、情報は真摯に受け反映している。	毎朝の引き継ぎ、連絡ノートでの個別案件の情報共有を図っています。そして年4～5回の「夜の全員食事会」を開き意見の聴取をしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とは日頃よりコミュニケーションを図り、個々の状況を把握できるように努め、安心して就業できる環境整備に心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ社外研修を受講する機会を設けることや、日々現場において指導することで、各職員の力量把握に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で知り合うことのできた他施設職員との交流を継続することや、地域ケア会議に参加し、同業者はもとより地域の介護に携わる方々と運営状況又は情報交換をすることでサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前(2週間～4週間)の体験期間を設け、御本人の状況確認をしながら、細かな要望を知り相互関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、入居申し込み～体験期間を通じ、本人の状態を確認しながら、家族の状況や要望を知り相互関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネージャーやワーカーも含めて、現状を考察し、他種別のサービスや他事業所の利用を含め、最適な選択ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において利用者と職員で共同作業(掃除・洗濯たたみ・台所支度)や散歩をすることで、時には家族・友人といった関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族、職員の関係を均一に保ち、家族も介護に参加しているという意識を持ってもらうことにより円滑に日常生活を送ることができるよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の状態に応じ、これまでの生活で築いて来られた事(地域行事・老人会活動・冠婚葬祭等)を継続できる支援を重んじている。	ご利用者の聞き取り調査で趣味、好みを知ります。また、介護中の会話から過去の情報を知り日常の支援につなげています。そして看取りの時には、皆で見送って別れを告げるなど野辺の送りをしてあげます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で共同作業(掃除・洗濯たたみ・台所支度)や散歩、食事の座席配置の工夫等により、仲間作りをのしやすい環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の準備や、退去後の生活においても必要なサービス利用に支障がないように相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	色々な場面にて利用者の希望や意向を尊重し、又汲み取ることに努め、可能な限り暮らしに取り入れている。	ご利用者に聞く場合、単純化した聞き方や答えが選択できることが好ましいようです。また言葉の不自由な方とは日頃の挙動から目的を判断したり、ご家族から情報を得て介護に努めます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者又は家族から、これまでの暮らし方や個人情報を収集し、利用者本人に合う生活を維持するために支援をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態、日常の暮らし方を細部まで把握し、細かな事柄でも各スタッフに情報伝達をし、支援に役立てるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に全スタッフが情報収集に努め、利用者、家族との意見交換し、現況に合う介護計画作成に努めている。	ご利用者の日々の情報は連絡ノートに記載されており、ケアプランの見直しは、これらの情報と朝のミーティングから、ケアマネがまとめあげます。そして家族の要望を入れて、作りあげますが介護計画の見直しは半年に1回の割合です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の関わりにおいて、気づき・実践・結果を明確に連絡帳へ記録し、情報を共有することで介護計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	発生したニーズに即応することを大切にし、スタッフから利用者、家族に選択肢を提案することや、協力関係機関からもアドバイスをすることで、当事業所において可能な限りの支援を行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の暮らしがよりよくなるために、活用できる地域資源を模索し暮らしが豊かになるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と良好な関係を築くことで情報を適切に伝達し、利用者、家族の希望をありのまま伝えるよう支援をしている。	事業所では、ご利用者を3グループに分け協力医の診療所に職員が連れて行き受診をしてもらっています。そしてターミナルの場合は、協力医の往診があります。また看護師は非常勤で契約しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師と介護職員が情報を共有することで、適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入退院をする際、日常生活の情報を交換したり、医療関係に適切な指示を得られるよう担当主治医も含めた協働関係を築く支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より利用者や家族に重度化・終末期になられた際のことをイメージして頂くことや、当事業所において可能な対応を説明し、主治医と常に情報を共有することで、いつでも希望された支援ができるようチームケアに取り組んでいる。	事業所では、これまで多くの看取りをしていますが、若い職員を含めターミナルケアの対応を主治医、看護師らから受けています。そして、ご家族には24時間の付添で、揺れ動く心を支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初期対応として、応急処置や通報手順等を確認し、実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として定期的な防災訓練や、早期に情報収集し協力体制を図るための伝達手段や実践力を習得している。	年2回の定期防災訓練をしています。訓練は消火と避難訓練ですが、特に消火器の取り扱いと火災時の自動通報装置の操作習熟に力を入れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格や生活歴等を考慮し、日常生活の中で一人ひとりに敬意をもって、又柔軟に対応している。	ご利用者は、一人ひとり社会での経歴が違つところから、極力、言動を否定しない対応を心がけています。そして「徘徊の時」は、いきなり止めずに見守りながら対応し、トイレ、入浴時には、他から見えないことに気配りをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者や家族の希望を知ろうとし、様々な場面において自己決定ができるように支援をしている。又困難な場合には選択肢を提示することや思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしが御本人のペースで過ごせるよう、その日その時の心身状態を把握し、関わりの中から利用者の希望を見つけ出すようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを把握し、身だしなみやおしゃれを楽しむことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や食事の摂り方を把握し、楽しみとなる食事になる支援をし、準備や片付けは利用者と職員が協働としている。	食材は、地元の米、野菜を中心に地産地消に心がけています。食前食後のお手伝いは、必ず本人が食器を下げることを、ルール化しています。また、メニューは、その日の仕入れにより変更することもあり、家族経営の自由と面白味があるようです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自家米や地元野菜を中心に、利用者個々の状態に応じた、栄養・水分摂取量の確保を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥防止・清潔保持のため、毎食後に職員指導の下、利用者の口腔状態に応じたケアを勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向け、利用者個々の排泄を記録し、排泄パターンを考察しトイレ誘導を行い、夜間の排泄に対しては、睡眠の妨げにならない支援をしている。	入所前後で、布パンツ、リハパンツの利用割合の変化は、無いようで、排尿、排便の24時間パターン表を活用しています。夜間はリハパンツにパットを使用し、難しい方は時間によるトイレ誘導をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活・食事を軸に、体操や散歩を取り入れ、適切な排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯(13:30~17:00)に利用者の状態や希望に応じ、楽しみごとと清潔保持のために支援をしている。	浴室には、ミスト浴もあります。夏場が人気ですが足湯と組み合わせると冬場でも暖かく、ご利用者は疲れにくいようです。入浴になると「服を持って行かれる」と妄想する方もいましたが風呂を見て納得するようです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身状態に応じ、睡眠や休息ができるよう支援している。居間にある畳スペースにて、簡単に昼寝ができる工夫もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り、正しく服薬が完了し症状の経過観察に留意する支援をしている。又、副作用と思われる症状が生じた際には早急に医師へ連絡し対応を検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの中で、一人ひとりが自分の役割を持ち、共同生活を通して、仲間との関わりを楽しむ支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に体力作りや気分転換を兼ね、散歩を取り入れ、利用者や家族の要望があれば買い物・地域行事への参加支援をしている。	通常の散歩コースは施設周りです。隣には大型商業施設がありますが、車の往来が多いようです。このため遠出は、難しく庭にイスを並べて日光浴をするのが人気です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭(貴重品)所持は、利用者や家族の希望に応じ、紛失、誤飲等のリスクを説明した上で了承して頂いた場合に、管理していただけるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、電話や手紙を自由に交換できるよう見守り、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは毎朝利用者と職員で掃除を欠かさず行い、清潔で心地よく暮らせる工夫をしている。利用者の心身状態を配慮し、音・光等を自然に近いものにしていく。	共用スペースには、高い天窓があり、夏用のスタダレが日差しを遮っています。事業所によりますと、ご老人は冷房に弱いということです。また、居室の扉を開けるとセンサー代わりに風鈴が鳴るカラクリがあります。一角には、古いランドセル、古時計などが並べられ、懐かしさを演出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を広く取り、畳コーナーや散歩廊下を設け、時には賑やかに時には人の気配を間近に感じながら安心して過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや室温に配慮し、家族との相談の上、利用者の持ち込んだ品(家具・写真)をできるだけ使うことで、居室にて心地良く過ごせる工夫している。	居室は、おしなべて家具が少なくシンプルです。事業所では、フローア、居室を年2回、清潔さを維持しようと壁面、カーテンなどを洗う大掃除をし、雰囲気を一掃するのが恒例です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内にて利用者が、自由で自立した暮らしが続けられるよう、看板や目印を活用している。		